



四 気 折 々

川越町立川越中学校
学校だより第29号
令和5年10月25日
令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を受けて、「川越町の子どもたちの学力向上に向けて」

四気＝川越中校訓 「やる気 ほん気 こん気 げん気」
学校教育目標 『 自立した生徒の育成 -自律・調和・創造- 』

『令和5年度 全国学力・学習状況調査』結果概要のお知らせ。

学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの学力を育んでいきましょう。川越中学校は、「聴き合い学び合う」授業 「学びをあきらめない」授業 そして「誰一人取り残さない」授業を大切にします。授業改善の視点を持ち「わかる・できたと思える授業」を大切にします。

◆ 令和5年度 「全国学力・学習状況調査」の結果と対応

校長 田口 佐登志



4月18日（火）に中学3年生を対象として（小学校は6年生）「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果を昨日10月24日（水）結果公表をさせていただきました。

結果公表は川越町の中学校・小学校一斉に行いました。川越中学校ホームページのトップページ『お知らせ』のフォルダへのアップ（「川越町の子どもたちの学力向上に向けて」～全国学力・学習状況調査の結果報告～）と3年生保護者の皆さまへの「すぐーる配信」を行いました。3年生生徒への結果（個票）は11月8日（水：期末テスト発表日）に返却をいたします。この調査の目的は、川越中学校の3年生の学力・学習の状況を分析し、本校の「授業への取り組みをはじめとする教育施策の成果と課題を検証すること」にあります。これを受けて、本校での「教育指導及び授業改善に向けての充実に役立てる」ことを大切にします。結果分析をすすめ、指導の成果・課題そして、今後の対応（授業で大切にしている取り組み）をまとめました。この調査で測定できる「学力」とは、学力全体（確かに生きる力）の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを付け加えさせていただきます。

校の「授業への取り組みをはじめとする教育施策の成果と課題を検証すること」にあります。これを受けて、本校での「教育指導及び授業改善に向けての充実に役立てる」ことを大切にします。結果分析をすすめ、指導の成果・課題そして、今後の対応（授業で大切にしている取り組み）をまとめました。この調査で測定できる「学力」とは、学力全体（確かに生きる力）の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることを付け加えさせていただきます。

①【学力調査の結果（経年推移をもとに）】 ※令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大で実施せず

令和元年度	川越中学校の結果から（全体の傾向）： 正答率の低い生徒は少なく、学力の底上げが見られる（学力向上が進んでいる）	
	国 語	正答率のやや低い生徒がやや多い
	数 学	正答率の高い生徒から低い生徒まで同じような割合で存在する中、正答率の高い生徒がやや少ない。
	英 語	平均正答率あたりに多くの生徒が占めており、正答率の低い生徒は極めて少ない。

※令和元年度は、「英語」が実施された

令和3年度	川越中学校の結果から（全体の傾向）： 正答率が中位よりやや低い生徒が多い。	
	国 語	正答率のやや低い生徒がやや多い
	数 学	正答率の低い生徒から高い生徒まで同じような割合で存在する中、正答率の高い生徒がやや少ない。

※令和3年度は、「国語」・「数学」の2教科のみで実施された

令和4年度	川越中学校の結果から（全体の傾向）： 正答率が低い生徒が少なく、中位よりやや上位の生徒が多い。	
	国 語	正答率が低い生徒は少なく、全体的に正答率が高い。
	数 学	正答率の中位から上位の生徒が多い。
	理 科	正答率の中位からやや上位の生徒が多い。



※令和4年度は、「理科」が実施された

令和5年度	川越中学校の結果から（全体の傾向）： 国語、英語は正答率が中位よりやや低い生徒が多い。しかし、数学では問題別の半分の項目で正答率が全国比を越えている。学力の底上げが見られる	
	国 語	正答率のやや低い生徒がやや多い。書くことの正答率が中位（全国比同等）の生徒が多い。
	数 学	正答率が全国比と同等。正答率の中位（全国比同等）の生徒が多い。
	英 語	正答率のやや低い生徒が多い。書くことの正答率がやや低い。

※令和5年度は、「英語」が実施された。記述と「聞くこと（Listening）」のペーパー記述の検査とは別日に、「話すこと」としてPC室にてクラスごとと少人数にて実施しました。

②【令和5年度実施教科の結果分析をより具体的に標記します。この結果を受けて、現状で大切にしている授業内容(授業改善につなげるために)】

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果分析 【国語】 (+)、(-) は正答率の全国比を表す		
【本校の国語における強み】 ※ HP 上の内容を具体的に	【本校の国語における弱み】 ※ HP 上の内容を具体的に	【川越中3年国語で大切にしている授業内容】 授業改善の視点で大切にしていること (方向性)
◎読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて文章を整えることが理解できている生徒の割合が高い。(＋7) ◎事象や行為、心情を表す語句について理解している。(＋1) ◎文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結びつけ、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。(＋1.4) ◎意見と根拠など情報との関係について理解している。(＋3) 	◇文章の構造や内容を分析的に読む力が弱い。漠然と読んでいるので論理的に理解していない。 ◇同音異義語の漢字や文意に即した漢字を書く力、選ぶ力が弱い。(－12) ◇自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる力が弱い。また、資料を分析したり活用したりすることが弱い。(－5.7) ◇「読むことの領域」で要点を読み取ったり、詳細を読み取ったりする力が弱い。 ◇観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考える力が弱い。(－6.7) 【川越中3年生のみなさんへ】 上記の国語における「弱み」を自分事としてとらえて、今後の自主学習・家庭学習等につなげていきましょう。わからない点はぜひ、友だちと相談したり、教え合ったり、わからないことをわからないと言えるといいですね。積極的に教科担当の先生へ質問をしましょう！	【説明的文書では】 ・文章をまとめる力をつけるため要約演習を行う。 【書く活動・表現活動では】 ・「漢字を覚えて正しく使うこと」「適切な言葉を選び話すこと」など、語句に対する知識を広く、言葉を「適切に」「正しく」という言語意識を高める活動を取り入れる。 ・本文の意味をしっかりと理解するよう、筆者の主張を必ずまとめるようにしている。 【授業改善の視点で大切にしていること】 ・「伝統的な言語」や「語彙の活用」はカードやプリント学習で工夫する。 ・国語授業の中に作業を入れることで、「感性」や「達成感」を養う活動を意図的に入れていく。 ・生徒質問紙からみられる特徴より、国語の勉強を大切だと思う生徒は、全国・三重県平均を上回っている。国語の授業の内容がよくわかるかという設問に対しては、「よくわかる」「どちらかというときよくわかる」を合わせ75%を超えている。また、「社会に出た時に国語が役に立つと思う」生徒が多いことから、今後も基礎学力の定着を図るための工夫、さらに生徒が主体的に学習に取り組もうとする意欲がもてるような、魅力ある授業を創造していく。
【これからの国語授業に求められる力】 自分の考えがわかりやすく伝わるように、考え方の根拠を明確にして「書く力」と「伝える力」「聴く力」の指導の充実。「書くこと」では互いの文書を読み合い、聴き合い、目的や意図に応じた文書の構成や展開になっているかなどについて、感想や意見を述べ合う活動を大切にすすめる。		

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果分析 【数学】 (+)、(-) は正答率の全国比を表す		
【本校の数学における強み】	【本校の数学における弱み】	【川越中3年数学で大切にしている授業内容】 授業改善の視点で大切にしていること (方向性)
◎「選択式」「記述式」の問題の正答率が高い。(他には短答式の問題がある) ◎『自然数の意味を理解しているか』『数と整式の乗法の計算ができるか』といった知識・技能を問う問題の正答率が高い。(＋12) ◎与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる。(＋4.7) ◎複数の集合のデータの分析の傾向を比較して捉え、判断する理由を数学的な表現を利用して説明することができる。(＋3.8) ◎2つの直線BCと直線AEが並行であることを、三角形の合同を基にして、同位角または錯角が等しいことを証明	◇無回答率が顕著に高く、正答率が低い問いが2つあり、出題趣旨は次のようなものである。 ①「目的に応じて式を変形したり、意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明する力」、「結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返り考え、成り立つ事柄を見出し説明する力」が弱い。 ②記述式問題に対する生徒の様子は二極化していることがわかる。自信がある部分しか記入しない傾向があり、苦手意識のある生徒は、無回答が多い。 ◇空間における平行線が同一直線上にない3点で決定されることを理解する力が弱い。(－2.7) ◇累積度数を求める力が弱い。(－15)	【基礎基本の定着では(習熟度授業)】 ・知識・技能を問う問題の正答率が高い要因は、教員の複数配置による指導体系が効果的に働いた結果であると考え。授業を進めるなかで、基本的な問題は一斉指導で丁寧に行っており、机間巡視を2人の教員で行うことで数学へ苦手意識をもつ生徒のフォローを行っている。また、生徒同士が聞き合える関係を大切にしているので、わからないままにせず、仲間に聞いて確認する姿を認めていっている。その結果、基本的な問題への正答率が高まったのだと考える。 ・「記述式」の問題の正答率が高い要因は、パフォーマンス課題の位置づけである。小ままとまりごと、単元のまとめ等で発展課題として記述課題を出すこともある。また、教師から生徒へ「なぜ?」「どうして?」と問いかけることで、解く過程について、言葉で説明する機会を授業のなかで意図的に設定している。 【全体への共有の課題から発展課題として】 <基礎的な問題・課題提示(共有の課題として)> ・前時まで得た「知識と技能」を活かし、基礎的

できる。 (+3.2) 	【川越中3年生のみなさんへ】 上記の数学における「弱み」を自分事としてとらえて、今後の自主学習・家庭学習等につなげていきましょう。わからない点はぜひ、友だちと相談したり、教え合ったり、わからないことをわからないと言えるといいですね。 積極的に教科担当の先生へ質問をしましょう！	な問題提示（共有課題として）して、自分の力で解こうとすることを大切にしている。そこでは、思考や計算の工夫を一番大切にしている。 ＜発展的な問題課題提示（ジャンプ課題として）＞ - 基礎的な問題提示（共有課題）から学んだ「知識と技能」を最大限に活用をし、自分で考えたことと、学習班で学んだ他者の考え方も取り入れて、深い学びへとつなげることを大切にしている。 【根拠をもとに説明する力として。深い学びへ】 - 自分で考えたことやどの問題をどのような考え方で解いたのかを証明の問題と同じように、考え方の根拠をもとに説明できることを大切にしている。 【誰一人取り残さない・学びをあきらめない授業】 2年生での少人数（習熟度コース別）授業によって、数学に苦手意識のある生徒やつまずきのある生徒に寄り添いながら対応することを大切にしている。
【これからの数学授業に求められる力】 今回の調査問題のように、いま問われていることは何なのか、それを解決するために必要な情報はどの部分なのかを確認しながらの授業実践。また、伴って変わる2つの数量の変化や対応を知識と技能を活用しそれらの関係を数学的思考から、自分の考え方や求め方を表現できるような指導の充実を目指す。		

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果分析 【英 語】 (+)、(-) は正答率の全国比を表す		
【本校の英語における強み】	【本校の英語における弱み】	【川越中3年英語で大切にしている授業内容】 授業改善の視点で大切にしていること（方向性）
◎社会的な問題について、短い説明の要点を捉えることができる。 (+6.5) ◎日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断をして、必要な情報を聞き取ることができる。 (+3.3) ◎情報を正確に読み取ることができる。 (+2) ◎「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができる。 (+2.7) 	◇情報を正確に聞き取る力が弱い。 (-10.6) ◇未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書く力が弱い。 (-8.5) ◇疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書く力が弱い。 (-2.5) ◇「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書く力が弱い。 (-3.8) ◇文と文の関係を正確に読み取る力が弱い。 (-4.3) ◇社会的な話題に関して読んだことをについて、考えとその理由を書くことができる力が弱い。 (-1) 【川越中3年生のみなさんへ】 上記の理科における「弱み」を自分事としてとらえて、今後の自主学習・家庭学習等につなげていきましょう。わからない点はぜひ、友だちと相談したり、教え合ったり、わからないことをわからないと言えるといいですね。 積極的に教科担当の先生へ質問をしましょう！	【聞く力を高めるために】 - 聞くことでは、授業の中で教師ができるだけ英語を話すようにした。また、リスニングの練習をする機会を多く持ち、1回で聞き取る練習をした。 【読む力を高めるために】 - 読むことでは、教科書の本文を初めて読んだ後に、内容に関する質問をしておおまかな内容を読み取れることを意識させた。また、本文の内容に関する問題を解く練習を行った。 【書く力を高めるために】 - 授業の中で、文法を学習した後に英作の練習を多く取り入れていく。また、テーマに沿った英作文を書く機会を増やす。英単語の定着を図るために、単語の確認テストを行う。 【授業改善に向けた方向性】 - ペア学習をたくさん活用することで、一人一人が英語を使用する場面を多くする。また、自分の伝えたいことが相手に伝わるということを大切に、間違いを恐れずに英語を話したり書いたりできるように指導していく。 【ALTを効果的に活用した授業】 - A L Tを有効活用し、ネイティブの英語に触れる機会を増やすことで、英語を聞く力の向上を図るとともに、英語でのコミュニケーション力を育成する。 【パフォーマンステストを実施し、生徒一人一人の力を把握し、つかむ】 - 生徒一人一人に対し、パフォーマンステストを定期的に行い、個々の生徒の学習内容の定着具合を把握するとともに、個に応じた指導を進めるとともに、生徒一人ひとりが課題を捉え、主体的な学びにつなげる。
【これからの理科授業に求められる力】 課題を解決するために適切な探求の方法を検討し、探求の過程の見直しをもつ学習活動の充実を図る。中でも、予測や仮設と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、監察、実験の操作や条件の制御などの探求の方法について検討し、探求の過程の見直しを持つ力をつける。		

③【生徒質問紙による生活調査結果から全国平均と川越中学校との比較として】

① 学習時間帯（家庭学習）

Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしていますか（学習塾や家庭教師、インターネットで学ぶ学習も含む）

・学習時間が1時間以上生徒の割合・・・ 全国：65.8% 川越中：68.3%

Q：土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

（学習塾や家庭教師、インターネットで学ぶ学習も含む）

・学習時間が1時間以上の生徒の割合・・・ 全国：65.3% 川越中：64.1%

Q：家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。（学校の授業の予習や復習を含む）

・している（ときどきも含む）生徒の割合・・・ 全国：55.0% 川越中：52.1%

*平日の学習時間では、1時間以上の生徒の割合は約70%で全国を上回っており、平日は家庭学習の習慣が身についている生徒が多い。しかし、学校が休みの日の学習時間では、1時間以上家で勉強している生徒の割合は、全国よりも低い結果となった。休日は家族との時間を大切にしていることや地域の行事等に参加していたり、部活動等に参加していたりすることが影響しているのではないかと考えられる。自分で計画を立てて勉強しているかの問いでは、肯定回答をした生徒の割合は約50%となっており、全国を下回っている。各教科から出される課題に学習時間の多くが使われ、自主的な学習まですることが難しい状況が考えられる

② 基本的生活習慣

Q：朝食を毎日食べていますか。

・食べている生徒の割合・・・ 全国：91.2% 川越中：88.1%

Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

・寝ている生徒の割合・・・ 全国：79.0% 川越中：72.7%

Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

・起きている生徒の割合・・・ 全国：91.3% 川越中：91.5%

*中学校では、同じくらいの時刻に寝ている生徒の割合が、全国よりも低く、30%程度の生徒は就寝時刻が決まっていない。同じくらいの時刻に起きている生徒の割合は全国と同等で、早起きの習慣は身についているように思われる。しかし毎日朝食を食べていない生徒の割合は全国よりも高く、数名の生徒は朝食を食べずに登校している状況である。「早寝・早起き・朝ごはん」を心がけ、規則正しい生活リズムを整えることが大切である。

③ 自己肯定感

Q：自分には、よいところがあると思いますか。

・ある（どちらかといえばも含む）と答えた生徒の割合・・・ 全国：80.0% 川越中：75.3%

Q：先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

・思う（どちらかといえばも含む）と答えた生徒の割合・・・ 全国：87.3% 川越中：93.2%

Q：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

・思う（どちらかといえばも含む）と答えた生徒の割合・・・ 全国：94.6% 川越中：93.1%

*「あなたのよいところを認めてくれていると思うか」の質問での肯定回答は、全国割合を大きく上回っており、中学校で93.2%となっている。生徒の自己肯定感を育むために、学校教職員が多くの子供に対して個々を認める声かけをし、その声かけが児童生徒に届いていることが伺える。しかし、よいところを認められていると思うものの、自分自身でよいところがあると思えている生徒が75.3%。全国割合をやや下回っているが、それでも高い数値となっている。自己肯定感の高さは、川越中学校の良いところのひとつでもあります。

自己肯定感が高まっている生徒は、自己を大切にすることができるとともに他者を大切にすることもできる。そのため、中学校においては、人の役に立つ生徒の割合が全国より若干低くなっているのだと考える。

④ 地域や社会に関わる活動の状況

Q：今住んでいる地域の行事に参加していますか。

・参加していると答えた生徒の割合・・・ 全国：38.0% 川越中：54.7%

Q：地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

・思っていると答えた生徒の割合・・・ 全国：63.9% 川越中：75.2%

*地域の行事に参加している生徒の割合は全国より高く、地域に生徒が根付いていることが伺える。また、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている生徒の割合も全国より高く、生徒が地域に対して感謝の気持ちを持ち、地域のために主体的に行動したいという思いが持てていることも伺える。

⑤ 読書習慣

Q：学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか。（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

・1日の読書が30分以上の生徒の割合・・・	全国：28.4%	川越中：29.9%
・読書を全くしない・・・	全国：36.8%	川越中：35.9%

Q：読書は好きですか。

・好き（どちらかといえばも含む）と答えた生徒の割合・・・	全国：66.0%	川越中：62.4%
------------------------------	----------	-----------

*平日の学校の授業時間以外に読書時間では、30分以上読書をしている割合は中学校では約30%となっており、全国を上回っている。また、生徒の約35%は学校の授業時間以外に全く読書をしないことが分かった。授業以外の場面で生徒の読書活動推進に向けて、学校図書館の効果的な利用法や家庭読書推進の啓発に向けての取組を検討していかなければならない。また、読書が好きと回答した生徒の割合は約60%となっており、全国を下回っている。中学校では家庭学習や部活動等で忙しくなり、読書をするための時間の確保が難しく、読者離れが進んでしまう傾向があるのではないかと考えられる。

⑥ キャリアの形成

Q：将来の夢や目標を持っていますか。

・持っている（どちらかといえばも含む）と答えた生徒の割合・・・	全国：66.3%	川越中：70.1%
---------------------------------	----------	-----------

*将来の夢や目標を持っている生徒の割合は約70%となっており、全国を上回っている。コロナ禍において生徒に将来の目標や夢を持たせられるような取り組みが中止になっていたが、コロナ禍においても実施可能な方法を探りながら取り組みを進めてきたことが結果につながったと考える。また、本校では「自尊感情の育成」も重要な課題である。そのために、1年間を通した『出会い学習』を大切にしている。キャリア教育を兼ねて講演会形式で実施している。いのちの大切さを考える講演会として「LGBT性の多様性について深く学ぶこと」や、キャリア教育の視点から「学びをあきらめないこと、夢や目標を持つことの大切さと合わせて夢や目標は変わってもいい」という視点での講演会等を計画的に実施し、子どもたちの「心の成長」を促す取り組みを継続している。

③ 川越中学校の取り組み

(1) 関わりの中で、「聴き合い学び合う」授業「学びをあきらめない」授業。そして、自尊感情の育成に向けて、出会い学習(キャリア教育を兼ねる)の充実を図る。

本校で大切にしている人権学習の基盤に立ち、「仲間づくり」を柱とした様々な「学びの場」において、教師の意図した学び合う機会を大切にしたい取り組みを進めています。授業における学び合う機会を効果的に仕組むことにより、日々の授業改善を図っています。「学び合う授業」を通して、お互いを支え高め合う仲間づくりを大切にしたい授業づくりを行い、「聴くこと」の育成につなげます。また、生徒たちの関わり合いの中から一人でも多く「わかった」「できた」と思える授業づくりを行います。聴く力・コミュニケーション能力の育成を期し、生徒個々の資質を高めます。

そのような授業づくりから、一人一人が大切にされ、「学びをあきらめない」「誰も一人にしない」授業づくりへとつながっていきます。また、本校では「自尊感情の育成」も重要な課題です。そのために、1年間を通した『出会い学習』を大切に、キャリア教育を兼ねて講演会形式で実施しています。いのちの大切さを考える講演会として「LGBT性の多様性について深く学ぶこと」や、キャリア教育の視点から、「学びをあきらめないこと、夢や目標を持つことの大切さと合わせて、夢や目標は変わってもいい」という視点での講演会等を計画的に実施し、子どもたちの「心の成長」を促す取り組みを継続しています。

(2) 「書く」「綴る」「つなぐ」「かかわる」「語る」取り組み

日常生活や授業の内容について自分の思いを書く活動を通して、自分を見つめ直したり、自分の気持ちを整理したりする取り組みを行います。自分の思いを書くことによって学級通信、学年通信等でその言葉を綴り、つなぐ。そして、語る。その取り組みを通して、生徒間の相互理解を深め、生徒同士がかかわり、つながることで自己肯定感を高めるとともに、「誰もが安心して自分の思いを表現できる居場所のある学級・学年・学校」をつくり出します。そして、「誰もが安心して学び合いができる学習環境」をつくり出します。

(3) ICT機器の効果的な活用「学びをとめない(学びの保障)」ためのICT機器の活用

本校では、「わかる・できた」と思える授業づくりにつなげるために、ICT機器活用の「日常化」を目指しています。一人一台のタブレット端末やプロジェクター等のICT機器を効果的に活用し、視覚的に理解したり、学び合いの中から思考が深まったりする活動を行います。また、ICT機器を利用して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた効果的利用の推進を図っていきます。様々な理由で学校への登校が難しくなっている生徒に対しても、保護者・本人とも相談のうえ、「一人一人の学びを止めない(学びの保障)」ため、ICT機器を活用した「オンライン授業」を可能な範囲で継続していきます。

(4) 学習の理解と定着の要として、1時間の授業の中で「つけさせたい力」を明確にし、「めあて」と「振り返り」を大切にした授業づくりー貫性のある授業づくり

学習の見通しを立てたり、学習したことを授業内で振り返ったりする活動を計画的に取り入れるため、1時間の授業の中で「つけさせたい力」を明確にし、「めあて」を大切にすることで、学びの質を高め、「振り返り(振り返り活動)」まで一貫性のあるつながりを大切にし、1時間の授業の中で「できた・わかった」と実感が持てる学習へつなげます。

(5) 2年生数学授業における「習熟度別(コース別)」少人数授業を大切にすすめます。

本校2年生の数学授業では継続して「習熟度別(コース別)」少人数授業をすすめています。できる限り学年の生徒一人一人の学力の実態を明確にし、生徒一人一人の現状の理解度に応じたきめ細やかな指導ができる体制を整えるため、生徒からの希望を重視した「習熟度別(コース別)少人数授業」を大切にしています。次の2つのコースを設置し、生徒自身にあったコースを考え、教師や保護者の助言も得ながらコース選択をします。

■「基礎コース」・・・前年度の学習の復習を含め、基礎的な学習を繰り返し行うことを中心とした「学び合い・教え合い」を大切にしている授業を行います。

■「標準コース」・・・基礎的な学習だけではなく、知識・技能を活用した「応用問題(課題)」などの発展的な学習に取り組むことに重点を置いた授業を行います。

(6) 教師力の向上(生徒に関わる力・確かな授業力・日常的な授業改善)に向けた校内研修の充実

本校の学校教育ビジョンにおいて、一人一人の子どもたちを大切にしたい5つの具体的な柱のうち、「わかる・できたと思える授業」づくりを大切にしています。教師力の向上を目指し、日々授業改善の意識を持ち、教育活動に取り組んでいます。

校内研修では、「自ら課題を見つけ、粘り強く学ぶ生徒の育成」～ICT機器を活用した「学び合い・深め合う授業」の実現に向けた授業改善～という研修主題を設定して、教職員研修を通して学びを深めています。その中でも、「川越エキスパート」として、三重県教育委員会北勢教育事務所指導主事、川越町教育委員会指導主事等の指導・協力をいただき、全員が1回以上の研究授業・公開授業を行いながら、授業を参観し合い自らの授業に活かす取り組みの大きな柱として位置付けて「確かな授業力・教師力の向上」に努めています。

(7) ALTのMr.John先生の放課後English Circleの実施によって、「英語」への興味関心を高める。

【川越中学校ホームページの内容から】

■川越中学校ALT(外国語指導助手)のMr.John先生と一緒に放課後を利用した「English Circle」第1回目”英検3級にチャレンジ”! 「まずやってみること」からスタート。全学年から10名もの生徒が自主的に希望し参加してくれました。

■第2回目開催! 明日10月13日(金)は第3回目! 川越中学校ALTのMr.John先生の放課後English Circleの2回目ははじまりました! 9月21日(木)英検3級にチャレンジ第2弾! 1回目よりもさらに内容も充実!



本日9月21日(木)帰り学活が終了をした16時10分から、ALTがメインとなつての放課後の時間を活用しての学習がスタートしました。川越中学校で初めての取組であるALTによる『English Circle』です。毎日の英語授業でもALTとしてお世話になっているJohn先生。授業中にはなかなかできない内容の英語学習を放課後の時間30分程度をめどに、「聴くこと」「話すこと」を中心にはじめてみました。

先週の9月15日(金)に全校生徒に「English Circle Application」として希望者を募りました。運動部の部活動を引退した3年生を中心に全校で10名に参加をしてもらいました。1年生からも参加をもらったことは大変嬉しく思います。今日の活動の中心は、「英検3級」にかかわる、「聴く力」「話す力」の確認です。John先生から提示されたプリントに描かれたイラストを基にして、John先生との一人2分～3分のマンツーマンでの面接練習です。内容はもちろんAll Englishです。面接終了時には、ジョン先生が評価してくれたシートを返却します。一つ一つの質問項目に対して「○」「△」等で標記してくれました。まとめと振り返りの時間は参加してくれた学年ごとで行いました。実際の「英語検定」をイメージして、John先生とマンツーマンでの面接場面を想定した対応。あたたかい雰囲気の中にも緊張感があって、みんな一生懸命に取り組んでいます。英語が得意な人も、どちらかというと苦手な人も、英語をもって勉強したいと思っている人も、英語がよくわからないけど・・・という人も、みんなで楽しく英語を学びましょう!